けんこういんふぉ

12月1日は、世界エイズデーです

保健予防援課
Tel227－5102

エイズとは、ＨＩＶ（ヒト免疫不全ウイルス）に感染して免疫が壊されることにより、さまざまな病気を発症した状態のことです。

今年度の世界エイズデーキャンペーンテーマは「続けよう～Keep the promise,Keep your life ～」。これは、仕事も生活も続けよう、治療を続けよう、エイズと闘う人たちを支え続けよう、予防と支援のメッセージを送り続けよう、ユニバーサルアクセスを目指し続けよう、関心を持ち続けようということ。

現在ＨＩＶ感染は、治療方法の進歩により、適切な時期に治療を始めれば、発病を防ぎ仕事も生活も続けることができるようになってきています。大切なのは、予防、早期発見、早期治療、患者・感染者が安心して生活を送り治療を受けられるよう病気への正しい理解と支援です。ＨＩＶ感染は自覚症状がなく、気づかないうちにパートナーに感染を広げてしまう危険があります。ＨＩＶ感染・エイズを他人事と思わず、関心を持つ人が増えることも重要です。

レッドリボンはエイズに対する理解と支援のシンボルです（現物のリボンは赤色です）。

保健所ではエイズ即日検査を実施しています。無料･匿名で受けることができます。採血・問診をし、約1時間後に結果が出ます。病気についての理解を深めるため、あなた自身と大切な人を守るため、ご利用ください。事前に、電話で予約が必要です。

エイズ即日検査＝毎月第2月曜日（祝日除く）、午後1時30分～3時

土曜エイズ即日検査・相談＝12月4日（土）、午後1時30分～3時

川越再発見

今回出かけたのは

「笠幡駅」

もうすぐサザンカの咲く季節。笠幡駅から「さざんか通り」に出かけました。

笠幡駅を出ると、駅舎の壁に見慣れないもの（右写真）を発見！　調べてみると、昭和62年4月1日に国鉄からＪＲになったときに作られたヘッドマーク。川越線を走っていた電車に、実際に付いていたものだとか。現在は金属製がほとんどですが、これは木でできています。

駅前をまっすぐ行くと、県道川越日高線に出ます。目的地までは、そこから川越シャトルで約五分。「さざんか通り」のバス停を降りると、名前のとおりサザンカの垣根が続いています。垣根には、つぼみがたくさん。川越景観百選に選ばれているこの通りに、白やピンクの花が咲く鮮やかな季節はもうすぐそこです。

消費生活の豆知識　その8　高齢者に目立つ薬包装の誤飲事故

生活情報センターTel226－7066（相談専用Tel226－7476）

事例…処方された薬を、包装ごと飲み込んでしまった。のどが痛く救急車で病院に行ったが、のどの裏側に引っ掛かってしまい、レントゲンでは見つからず、数時間かけて内視鏡で取り出した。

薬の包装は、プラスチックにアルミなどを貼り付けたＰＴＰ包装シートと呼ばれるものが主流です。これを一錠単位に切ってしまうと、飲み込みやすいサイズになり、誤飲事故につながります。ＰＴＰ包装を飲み込んでしまうと、自力で取り出すことは難しく、Ｘ線写真にも写りにくいため、内視鏡手術をすることになり、身体への負担も大きくなります。

消費者へのアドバイス

①ＰＴＰ包装には、誤飲防止のため、横または縦のみの一方向にミシン目が入っています。一錠単位に切らないようにしましょう。

②高齢者の誤飲事故が目立ちます。家族など、周りにいる人も気を配りましょう。

③ＰＴＰ包装を飲み込んだかもしれないと思ったら、ただちに診察を受けましょう。

④複数の薬を飲む時間帯ごとに一つの袋にまとめて入れる「一包化」が可能です。有料になる場合や、薬剤によっては一包化できない場合があります。薬剤師などに相談してください。

人権教育シリーズ

児童・生徒の人権作文⑥

このシリーズでは、平成21年度川越市人権教育実践報告会で発表した小中学生の人権作文を紹介します。

地域教育支援課 ☎224-6086

アイヌ民族について学んで考えたこと①

高階中学校　一年

アイヌ民族……中学生の私たちには聞き慣れない言葉だと思います。ある本には、「アイヌ民族とは、北海道に古くから住んでいて、自然の恵みに感謝し、人間を深く愛し、平和な暮らしをしていた民族である」と書いてありました。私は、その北海道で生まれました。私の母がアイヌ民族について、よく話をしてくれました。

アイヌとは、アイヌ語で「人間」という意味だそうです。歴史の本では、次のように書かれていました。江戸時代に松前藩が北海道にやってくると、アイヌの人たちの生活はかなり制限されてしまいました。松前藩の家臣との不利な交易に腹を立てたシャクシャインという首長がアイヌの仲間と共に戦いを起こし、松前藩と全面戦争になりました。しかし、シャクシャインは毒で殺されてしまいました。これを「シャクシャインの戦い」といいます。その事件の後、アイヌの人たちはアイヌ民族独自の文化を失い、差別などを受け大変つらい生活をしてきたそうです。

アイヌ民族という理由でいじめられたり、働かせてもらえないこともあったと、私の母が教えてくれました。母が通っていた学校にアイヌの血をひく人もいたと言っていました。母が住んでいた近くにはアイヌの人たちが生活をしていたということです。母が小さいころ、湖に遊びに行くと、ふさふさの長いひげを生やしてアイヌ民族の衣装を着た人をよく見かけたそうです。（つづく）

品格あるまちを目指して

市長からの手紙

変えます。ここを！　⑦「小中学校の校舎の改修」

市には、市立の小学校が32校（校舎118棟）、中学校が22校（同76棟）あります。それぞれの学校の校舎および体育館について現在、耐震補強工事を行っています。子供たちの安全を守るとともに、災害の際には避難場所となることから市政の重要課題に位置づけ、平成24年度末の耐震化完了を目指して積極的に進めています。

耐震補強工事と併せて、一部では改修工事も行っています。これは、建物の経年劣化を最小限に止め、長く良好に使うために随時、実施していかなければならないものです。

昭和30年代、40年代に建築した校舎は75棟あり、大部分は大規模改修工事が必要な状態です。しかし、それには大まかな見積もりでも、1棟当たり約2億円の費用がかかります。これまで、予算がない等の理由により、大規模な改修に取りかかれずにきましたが、今後はきちんと改修計画を立て、順次着手していきます。

昨年、タウンミーティングで「市内の某中学校を見た旅行者から『あれは廃校ですか』と尋ねられた。市民として恥ずかしい」という意見をいただきました。すぐにその学校を視察したところ、非常階段や屋上の手すり等がぼろぼろ、コンクリートとの接続部分がさびて浮き上がっている状態を見て驚きました。「廃校」と見られるほど校舎が老朽化したままであるにもかかわらず手入れがされていないことは、不名誉なばかりか、実際に危険を伴う状態であったため、すぐに改修を指示し、今年度工事を行っています。

市の財政は、景気の低迷により歳入が減り、義務的経費が増加傾向にあり、その一方で投資的経費が減少するという、いわゆる財政の硬直化が進んでいる状態です。しかしながら、何とかして子供たちの安全のための費用は捻出（ねんしゅつ）し、校舎の大規模改修工事を計画的に、かつ、できる限り早く進めていきたいと考えています。

川越市長　川合善明